

# 粟田遺跡Ⅲ

—社屋建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書—

1998年

石川県野々市町教育委員会

## 例 言

- 1 本書は社屋建設に係る粟田遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は社屋の建設事業者である沢田工業株式会社の経費負担を受け野々市町教育委員会が施した。
- 3 調査地は石川郡野々市町粟田6丁目55・56番地である。調査は平成9年7月3日から7月24日にかけて実施し、調査面積は450m<sup>2</sup>である。出土品等の整理作業は同年12月に実施した。
- 4 発掘調査は吉田淳・永野勝章（野々市町教育委員会文化課）が担当した。  
本書の作成は吉田が担当した。

- 5 調査の作業では、以下の方々の協力を得た。

現場作業 井手和郎 岩田孝七 小野幸子 小幡精三 木下 光 瀬川朝子 木津美和子  
谷口初代 袖美保子 徳田外喜栄 長田芳子 西尾 稔 中川吉三 西川千明  
橋本美智子 羽土啓子 早崎長三 東 猛 南外志雄 山本美保子 横山日出子  
整理作業 増山明美

- 6 本書の各図・写真図版の指示は以下のとおりである。

(1) 本書での遺構・地図等の方位はすべて真北を表示し、水平基準は海拔高である。

(2) 遺構名の略号は次のとおりである。溝(SD)・ピット(SP)

- 7 本遺跡の出土遺物、記録資料は当町教育委員会で保管している。
- 8 調査にあたって、開発者の沢田工業株式会社関係各位及び代表取締役専務南野 保氏には多大な御理解と御協力をいただいた。感謝の意を表するものである。



第1図 周辺の遺跡(1/25000)

## 1 遺跡の位置と環境

石川郡野々市町は石川県の中央部金沢市に南郊し、西は松任市、南は鶴来町と接する南北6.7km、東西4.5km、面積13.56km<sup>2</sup>、人口4万3千人の平野部の町である。

粟田遺跡は野々市町の南部にあたる粟田・中林・藤平の3地区にまたがり、奈良・平安時代を主要な時期とする集落跡である。手取川扇状地東部の扇央部に立地し、標高は35mを測る。

周辺は稲作を主とし一面に水田が広がる地域であったが、近年は本遺跡の南方で土地区画整理事業が行われ、急激な変貌を遂げようとしている。

調査地は津田駒工業野々市工場（旧石川県農業試験場試験田）の南に位置し、県道額谷・三浦線と都市計画街路本町・新庄線の交差点の南西側に隣接する。

遺跡周辺における人々の生活は、現在のところ馬替遺跡（01400）により縄文時代後期中葉までさかのぼれることが確認でき、晩期末

では長竹遺跡（08044）が知られている。初期農耕の段階である弥生時代前期では上林遺跡（16001）が存在し、弥生時代末～古墳時代初期には上新庄ニシウラ遺跡（16002）において集落が形成される。古墳は後期7世紀代の末松古墳（16012）・上林古墳（16004）がみられる。この頃より周辺の開発が政治力を伴い本格的に着手され、権力の象徴とも言える大寺院の末松廃寺（16013）が7世紀後葉に出現し、奈良～平安期の集落が急増する。本遺跡をはじめとし、南方では上新庄ニシウラ遺跡・上林新庄遺跡（16004）・下新庄アラチ遺跡（16006）、南西に目を映すと末松A遺跡（16009）・末松ダイカン遺跡（16018）などの集落遺跡が展開している。律令国家体制の形成とともに、在地首長層による農業開発の推進が窺われる地域である。



第2図 野々市町位置図  
(1/3,000,000)

### 遺跡地図凡例「石川県遺跡地図」1992より

野々市町	
16001	上林遺跡（弥・平）
16002	上新庄ニシウラ遺跡（古・奈）
16003	上林テラダ遺跡（奈）
16004	上林新庄遺跡（縄・古～奈）
16005	上林古墳（古）
16006	下新庄アラチ遺跡（奈）
16007	下新庄タナカダ遺跡（奈・平）
16008	粟田遺跡（縄・奈・平）
16009	末松A遺跡（縄・平）
16010	末松B遺跡（弥）
16011	末松福正寺遺跡（古・平）
16012	末松古墳（古）
16013	末松廃寺（奈・平）
16014	末松C遺跡（奈・平）
16015	法福寺跡（?）
16016	福正寺跡（平）
16017	末松誓跡（?）
16018	末松ダイカン遺跡（奈～中）
16019	大館館跡（平～空）
16020	古元堂館跡（?）
16021	末松信濃館跡（中）
16022	清金アガトウ遺跡（平～中）
16023	三林館跡（安）
16039	富樫館跡（中）
16043	扇が丘ハイウゴク遺跡（縄～中）
金沢市	
01002	四十万B遺跡（平・中）
01005	四十万中世墓群（中）
01008	高尾城跡（室）
01104	額谷遺跡（古）
01105	額谷ドウシダ遺跡（縄～平）
01106	額谷城跡（平）
01112	高尾A遺跡（奈・平）
01114	高尾天神堂遺跡（平）
01119	高尾公園遺跡（平）
01120	大観キョウデン遺跡（?）
01121	扇台遺跡（弥・平）
01398	四十万遺跡（縄）
01399	三十万遺跡（奈～平）
01400	馬替遺跡（縄）
松任市	
08012	木津遺跡（弥～中）
08042	橋爪松の木遺跡（中）
08043	橋爪遺跡（縄・弥・中・近）
08044	長竹遺跡（縄～古・中）
08046	専福寺遺跡（中）
08047	高田遺跡（縄・平）



第3図 調査区位置図(1/5000)

## 2 調査の経緯と経過

栗田遺跡地内は津田駒工業の進出や、野々市町の施設であるスポーツランドの建設及び県道観谷・松任線の築造など大規模な開発が相次ぎ、これに伴い緊急発掘調査が実施されてきた。

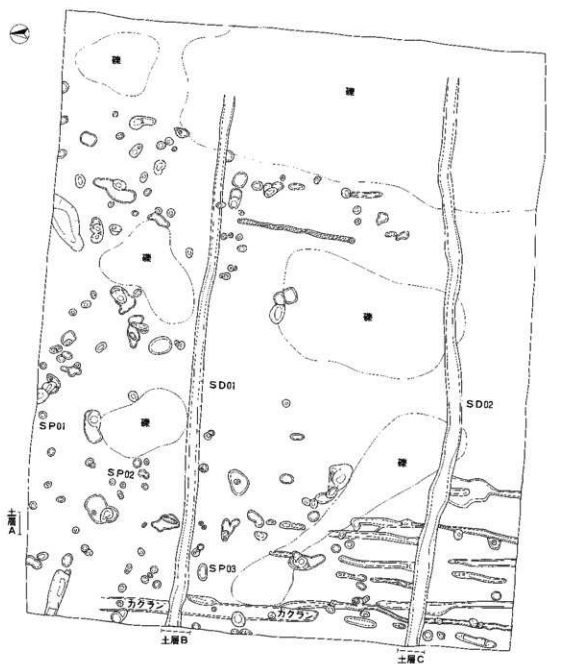
今回の調査の原因となる社屋建設の開発行為については平成9年4月に野々市町教育委員会に問い合わせがあるという急なもので、一方では都市計画街路高尾・堀内線の築造計画に伴い社屋の移転が急がれたことにもよる。周知の遺跡地内における開発であることから、まず遺跡の状況を知るための確認調査を掘削機により6月11日に行なっている。溝やピットを確認したことから、発掘調査の必要性を判断した。協議ののち平成9年7月1日に開発者と野々市町教育委員会は受委託の契約を結んだ。平成9年7月3日より調査を開始し7月24日に終了した。整理作業は同年12月に行った。

## 3 遺構と遺物

まず調査地と近接する津田駒工業用地の調査成果を振り返り、今回の調査区の状況についてみることにする。調査成果として、まず縄文時代晩期末頃の打製石斧製作地とされた事があげられる。また晩期末～弥生時代前期の土器も少量ではあるが出土している。この後8世紀前半から9世紀後半にかけて集落が形成され、3棟前後の建物が約50mの間隔で分布する散居村の形態をとっていたこと、微高地上に道路が走っていたことが確認されている（調査区域は第3図の工場部分である）。

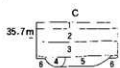
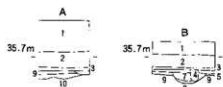
今回の調査では散居村の建物群や調査区方向に伸びる道路遺構の検出が想定されたが、検出した主な遺構は東西に方向をもつ溝2条、性格不明のピット、畑作に関係すると考えられる南北方向の小溝数条であった。地山が南へ緩く傾斜し低くなっていくことと併せ本調査地は遺跡の縁辺部にあたることを示唆するものであろう。

溝SD01は幅50cm、深さ20cmを測る。溝SD02は小溝を切り、緩く蛇行する。幅60cm、深さ15cmを測る。いずれも東側礫原付近で不鮮明となる。時期は不明であるがSD02が新しい時期と思われる。調査における遺物の出土量はごく僅かである。1・2は縄文時代晩期末の条痕文をもつ土器片である。1はSD01、2はSP03から出土した。3は礫原より出土した緑色凝灰岩製の打製石斧であり、長さ12.7cm、幅6.5cm、厚さ3.2cm、重量276gを測る。図示していないがSP01・SP02からは古代の土師器甕細片が出土している。肥前染付磁器の碗4は口径10.4cm、底径4.3cm、器高5.0cmを測る。18世紀末～19世紀中葉の製品であろう。



第4図 遺構全体図(1/150)

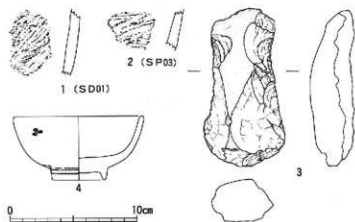
0 5 m



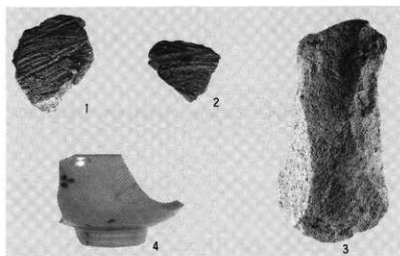
- |           |            |
|-----------|------------|
| 1 盛土      | 6 暗褐色粘質土   |
| 2 旧耕作土    | 7 灰褐色粘質土   |
| 3 赤土      | 8 地山源7土    |
| 4 灰瓦      | 9 褐色粘質土    |
| 5 暗灰褐色粘質土 | 10 明灰褐色粘質土 |

0 1 m

第5図 調査区土層図(1/60)



第6図 遺物実測図(1/3)



遺物写真



調査前近景 (北西より)

遺構写真



調査前近景  
(北西より)



調査区近景  
(南東より)



SD01 (西より)



SD02 (西より)

報 告 書 抄 録

ふりがな	あわた							
書名	粟田遺跡Ⅲ							
副書名	社屋建設に係る埋蔵文化財発掘調査報告書							
編著者名	吉田 淳							
編集機関	野々市町教育委員会							
所在地	〒921-8815 石川県石川郡野々市町本町5丁目4-1 TEL 076-246-2344							
発行年月日	1998年3月31日(平成10年)							
ふりがな	ふりがな	コ ー ド		北緯	東経	調査期間	調査	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ° °	° ° °		面積	
あわた	いしかわけんいしかわぐん			36度	136度	1997年7月3日		社屋建設
粟田遺跡	石川県石川郡	17344	16008	30分	36分	}	450m <sup>2</sup>	に係る緊急
	00いちまちあわた			30秒	42秒	7月24日		発掘調査
	野々市町粟田6丁目							
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
粟田遺跡	集落跡 その他	奈良・平安 縄文 近世	溝・ピット	土師器 縄文土器・打製石斧 近世陶磁器				

粟田遺跡Ⅲ

1998年3月31日発行

発行所 野々市町教育委員会

〒921-8815

石川県石川郡野々市町本町5-4-1

TEL076-246-2344

印刷 北國書籍印刷株式会社